

住民自身の参画による  
支え合いの仕組み・生きがいづくり

令和5年度  
富岡町心の復興事業  
活動報告書



## はじめに

平成23年3月11日に発生しました東日本大震災、そして福島第一・第二原子力発電所事故による避難指示により、富岡町の状況や町民を取り巻く環境は一変してしまいました。

発災からの13年という長い年月の中で、国・県・全国自治体のご関係者様や復興支援団体などから多種多様なご支援を賜りました。また、そればかりでなく今も尚、継続して被災地・被災者に温かな心を寄せていただいていることが我々の支えとなっております。

また、町民の皆さま、住民団体、町内事業者などは、心挫けそうな場面が多々ありながらも互いの手を取り合い、町の未来を切り開くべく弛まず前進するとともに町行政にご理解をいただき、心より感謝申し上げます。

震災から7年目となる平成29年4月1日には、帰還困難区域を除く地域で避難指示が解除されました。令和5年4月1日には、夜の森地区を中心とする特定復興再生拠点区域が帰還困難区域としてはじめて避難指示解除がなされました。残る帰還困難区域においても特定帰還居住区域としての認定を受け、ようやく第一歩を踏み出すことができました。

しかしながら、住民同士の支え合いやコミュニティの面では、従来の地域コミュニティが全町避難によりその機能が著しく低下していることから、孤独・孤立化が大きな課題となっております。

このようなことから、被災者支援総合交付金（復興庁）を活用し、令和4年度より富岡町心の復興補助金を創設し、住民自身が参画し、生きがいづくりやコミュニティづくりを行う団体の支援に取り組んでまいりました。

本年度の各団体の活動から、第二期復興・創生期間の終期となる令和7年度までといった限られた期間で住民同士による支え合い体制の再構築を効果的に進めるためには、「他の交付団体との協働や社会福祉協議会など既存組織・キーパーソンとの連携が必要不可欠」といった教訓を得るに至ったことから、交付団体の活動概要を取りまとめ、まずは知っていただきたく報告書を作成いたしました。

皆さまには、交付団体よりご協力をお願いすることがあるかもしれませんがご理解をお願いいたします。また、皆さまが行われます活動において各交付団体をご活用いただける場面などございましたら忌憚なくご活用いただきますよう併せてお願い申し上げます。

## 目次

はじめに	…P.1
I.令和5年富岡町心の復興事業交付団体活動報告	… P.3～
(1) 特定非営利法人 東北の造形作家を支援する会	… P.3
(2) 特定非営利法人 富岡町3・11を語る会	… P.7
(3) 小浜風童太鼓	… P.13
(4) 特定非営利法人 元気になろう福島	… P.19
(5) 特定非営利法人 インビジブル	… P.21
II.報告書送付先関係機関	… P.24

団体名	特定非営利活動法人 東北の造形作家を支援する会 (略称 SOAT)		
心の復興事業名	にじいろぱれっと	代表者	理事長 藤原 久美子
作成者	高橋州子 (コーディネーター)	連絡先☎	090-2982-3222 (藤原)

## 1. 団体の紹介・プロフィールなど

- ・設立 2009年(平成21年)5月 任意団体 東北の画家を支援する会設立を経て、  
2010年(平成22年)2月 特定非営利活動法人東北の造形作家を支援する会 設立
- ・事業内容 個展、企業展企画／運営、各種アートイベントの企画・運営
- ・活動 にじいろぱれっと(被災地支援)／児童館協働プロジェクト(子どもの育成)  
／企業・地域との連携(地域社会貢献)
- ・私たちの活動「アートワークショップ」について  
アートワークショップでは、作品をつくる(結果を出す)ことよりも、作品をつくるプロセス(時間)を大切にしています。アートワークショップを通した復興活動で、私たちと地域は「支援する→支援される」という一方向の関係性ではないと考えています。私たちと住民、あるいは住民同士や地域の支援者が「ものづくり」を通して同じ時間を過ごし活動するなかで、双方向の関係性を築きます。それが心のケアや住民主体の活動に繋がると考えています。
- ・富岡町での活動を行うにあたり、社会福祉法人富岡町社会福祉協議会の協力をいただいております。

## 2. 富岡町に関わるきっかけ

2017年(平成29年)に復興庁「心の復興」事業に採択、福島県県内避難先において、アートワークショップを通した復興支援活動を開始しました。主な活動先となった郡山市やいわき市でたくさんの富岡町のみなさんと、ものづくりを通した交流をしてきたことが富岡町に関わったきっかけです。参加者には富岡町へ帰還される方々もいらっしや、帰還後の富岡町の様子をお伺いすることも多くありました。避難先から帰還元へ活動を拡げていくことで、私たちの活動も富岡町のみなさんに寄り添ったものにしていきたいと考え、富岡町町内での活動を開始しました。



郡山市 富田団地  
ランプシェードづくり



福島市 さくらサロン  
クレイアート



いわき市 平交流サロン  
ものづくり相談会

### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容（1）

○アートワークショップを通じた復興事業

#### 1.「ものづくりアートワークショップ」

富岡町社協と協働し毎月1回ものづくりアートワークショップを開催しています。ものづくりの時間を通し、心のケアや生きがい、地域の交流が生まれていると感じています。



ものづくりアートワークショップ

#### 2.「ハーブガーデンアートワークショップ」

富岡町総合福祉センターの花壇に住民、富岡町社協と協働し、ハーブガーデンを作りました。富岡町社協と住民が一緒にお世話をし、私たちはハーブを使ったアートワークショップでサポートしています。



ハーブガーデンワークショップ

#### 3.世代間交流の促進

##### 「コラボレーションアートワークショップ」

富岡町社協と協働、富岡町放課後児童クラブ、富岡町老人クラブ、富岡町民生児童委員の協力のもと、ものづくりを通じた世代間交流活動を行っています。



世代間交流

### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容（2）

○「おてつだいボランティア」を通じた復興事業

私たちSOATの富岡町での活動をサポートしてくれるみなさんです。SOATのアートワークショップの参加者から生まれました。

#### 1.アートワークショップの事前準備

私たちが富岡町で行うアートワークショップには多くの事前準備が発生します。その準備の一部を「お手伝いボランティア」のみなさんと一緒に行っています。ものづくりに「参加」するだけでなく、運営に関わることで生まれた「仲間」との交流や生きがいに繋がっていると感じています。



お手伝いボランティア

#### 2.富岡町社協福祉まつりへの参加

「おてつだいボランティア×SOAT福祉まつりプロジェクト」この活動を行う中で「この仲間で福祉まつりで何かしてみたいね」とのお話がありました。しかし、実現に向けて具体を考える事は難しいことです。そこで私たちSOATと一緒にプロジェクトを立ち上げました。令和5年度は富岡町社協福祉まつりにおいて「ステンシルのエコバックづくり」のブースを出店しました。事前準備、当日の運営、参加者への指導をお手伝いボランティアのみなさんが中心に行い、私たちは企画、技術指導、開催サポートを行いました。



福祉まつり

#### 4. 団体が行う心の復興事業やその他の活動の課題などと対策・改善策など

本事業を行うにあたり、私たちが願い、心掛けていることは本事業終了後も「コミュニティ」や「いきがい」に繋がる活動が、ゆるやかな住民同士の繋がりの中で継続していくことです。

アートワークショップでは、支援者の皆さんやキーマンとなりうる住民の皆さん自身が「地域資源」となり、自分たちで交流の場づくりが出来るよう、私たちの技術や知識を惜しみなくお伝えしています。(講師育成講座)



講師育成講座

お手伝いボランティアでは、活動の継続できるフレームづくりを富岡町社協と話し合い、参加者とは「何か出来るか、何をしたいか」を話し合い、実現に向け段階的に参加者主体の活動に出来るよう、心掛け進めています。



お手伝いボランティアミーティング

富岡町のみなさまへお願いしたいことは、第二期復興創生期間の終期後も、世代や所属を問わず参加出来るものづくりやアートを通じた交流事業が継続されることです。アートワークは心の癒しだけでなく、人々の交流や地域資源となる人材の発見や育成につながると実感しているからです。

JR夜ノ森駅東口にある、ガラスのモザイクアートは2019年(令和元年)「復興片心の復興事業」にて、復興公営住宅にお住いのみなさんにお手伝いいただき、富岡小中学校の児童生徒のみなさんと制作したものです。JR夜ノ森駅への設置については富岡町役場のみなさまに大変なご尽力を頂きました。

この活動をきっかけとして、2020年(令和2年)には富岡町教育委員会と富岡町社協の協力をいただき、富岡町小中学校の児童生徒のために、住民のみなさんが卒業の記念にと全校生分の桜の花のブローチと、児童生徒のみなさんのデザインを基にした「桜とロウソク岩の押絵アート」をつくり寄贈しました。また、富岡町老人クラブと協働し、にこにこども園には老人クラブのみなさん手作りの積み木を寄贈しました。

世代間交流は、大人にとっては癒しや生きがいとなり、子どもたちにとっては学びの機会になります。一時、コロナ禍で交流活動は中断されましたが、令和5年度にみなさまのご協力のもと「富岡町心の復興事業」において再開することが出来ました。





団体名	特定非営利活動法人 富岡町3・11を語る会		
心の復興事業名	多様化するすべての町民の生きがいくりと新たなコミュニティ作りを目指す「語り人活動」事業	代表者	代表理事 青木 淑子
作成者	宗像 涼	連絡先☎	0240-23-5431

## 1.団体の紹介・プロフィールなど

- 震災体験や富岡町の文化・伝承を伝える口演活動を継続している。
- 2023年度(令和5年度)実績:口演回数291回 聴講者13,464名
- 表現塾、音読教室、防災無線の放送(小学生)などの表現活動を通して町のコミュニティ再生に貢献した。
- 避難先である郡山住民と町民の交流拠点「人の駅 桜風舎」の運営:郡山に設置。
  - 今まで50回以上の企画を実施し、参加者の数は600人以上の利用がある。
  - 富岡町町民の今を伝える語り人通信の発行:2カ月に1回のペースで実施。
- これまで41号発行
- 町民劇、朗読劇などの公演により富岡町(福島)の現状を全国に発信した。





## 2.富岡町に関わるきっかけ

- ・2013年(平成25年)4月  
富岡町社会福祉協議会避難者支援おだがいさまセンターの事業として「震災の語り部事業」が開始。  
富岡町民から語り部活動への参加希望者を募る。  
18名(福島市2名、いわき市2名、喜多方市1名、郡山市13名)
- ・2015年(平成27年)4月  
「富岡町3・11を語る会」として独立(代表 青木淑子)郡山市富田若宮前応急仮設住宅内に事務所を設置。
- ・2016年7月  
特定非営利活動法人格を取得。  
代表:青木淑子、顧問:富岡町長、教育長、社協事務局長  
人の駅「桜風舎」開設(郡山市長者一丁目7-17)
- ・2017年4月  
富岡町に事務所 開設(富岡町中央3-53さくらモールとみおか内事務所1号)

### 【活動の経緯】

- ・2017年度(平成29年度)~2021年度(令和3年度)  
富岡町からの震災の体験を教訓にする伝承活動、避難町民の生きがいつくり、避難先での交流拠点作りに関する業務を受託
- ・2023年度(令和5年度)  
富岡町心の復興補助金 採択

### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容（1）

#### 【語り人活動の実施】

（桜風舎、学びの森、とみおかアーカイブ・ミュージアム、県内外各地）  
2015年（平成27年）4月～2024年（令和6年）2月末

1,507件 65,474名 聴講

うち、とみおかアーカイブ・ミュージアム 2回実施（120名）

#### 〈成果〉

- 東日本大震災・原子力災害の現状と課題を語り伝える事が、世界に類を見ない複合災害に襲われた富岡町を「知って」「一緒に考える」人を増やし、復興の原動力となっている。
- 町民が自分の体験を語り共感してもらうことで、生きがいを感じ、明日に向かう力が湧く。
- 災害時の知恵になると感謝される
- 語り人となることで、一緒に活動する人とのつながりが生まれる。
- 孤独感の克服
- 新しいコミュニティの形成

#### とみおかアーカイブ・ミュージアムで語る



### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容（2）

#### 〈避難先での交流の拠点づくり〉

郡山市内の拠点として「人の駅 桜風舎」を設立。  
企画講座、語り人研修会、定例会を実施。

（2022年（令和4年）は定例会10回）

2023年度（令和5年度 2月末時点）：企画講座 6回 54名参加



### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容 (3)

#### <情報の発信と共有>

- ・桜風舎の展示(富岡町の情報が展示)
- ・「語り人通信」の発行



#### 町のアーカイブで語り人アワー

11月17日(日)とみおかアーカイブ・ミュージアムで「語り人アーカイブアワー」を開催しました。口演をしていただいたのは、自身の語り人「お耕斎美子」さんです。

審判司を務らしていた小林さんは、審判員に郡山市のビッグパレットふくしまに避難、避難していた時に一緒にいた人と使った毛布の活用方法、避難所にできたお風呂などの話など、審判の体験談を聞きました。

事前告知でポイントを知りお話しいただいた方以外にも、とみおかアーカイブ・ミュージアムに来たお客様が立ちこまり、遠く約50名の方に参加いただきました。中には同じ避難生活を送った富岡町民の方も来てくださいました。口演の後、審判のことを語り人や参加された方と一緒に振り返りご自身の思いをお話される方もいらっしゃいました。

2月号掲載を予定しています。ぜひお話し合わせの上、お話しください。詳しい情報はSNSをチェックしてください!



●次回の予定  
第2回：2月 11日(日)  
第3回：3月 3日(日)

#### 語り人通信41号



#### <その他>

表現塾、音読教室、防災無線の放送(小学生)などの表現活動を通して町のコミュニティ再生に貢献



#### 4. 団体が行う心の復興事業やその他の活動の課題など対策・改善策など

##### (1) 課題

- ・語り人活動の広がり⇒語り人活動の固定化を打破。
- ・語り人の育成⇒語り人の高齢化への対策。
- ・避難先町民の交流拠点づくり⇒13年経つ中で、避難先町民の実態の把握。

##### (2) 対策

- ・語る会の語り人に限らず、広く町民が語りやすい環境と機会をつくり語り人ネットワークを構成する。
- ・世代間交流を図り、語り人の育成講座を実施する。
- ・避難先町民の実態にあわせた交流企画を立て、周知を図る。
- ・伝承活動の視点から「富岡町の情報」発信をより充実させる。

団体名	小浜風童太鼓		
心の復興事業名	小浜風童太鼓盆踊り大会等を通じた 生きがい交流促進事業	代表者	榎内 正和
作成者	榎内 正和	連絡先☎	090-1803-2358

## 1.団体の紹介・プロフィールなど

### 《震災以前》

富岡町を中心に双葉郡ハケ町村や浜通りの住民へ和太鼓演奏を聞いて頂き少しでも元氣・勇氣や感動を与えていけるよう様々なイベント会場で演奏活動を行うとともに、ふるさと富岡町の夏祭りには欠かせない盆太鼓を次世代へと伝統芸能継承すべく地区の子供を対象に太鼓教室を1994年(平成6年)から開催し、ふるさと活性への一助として活動してきた。

### 《震災後》

東日本大震災後は、いわき市に避難したメンバーを中心に福島県内の避難者を和太鼓で応援すべく、仮設住宅等のイベントでの演奏活動に加え、いわき市内の復興公営住宅での健康太鼓教室を自主的に開催し、生きがいとコミュニティづくりを展開してきたことが認められ復興大臣より感謝状を頂戴した。

また、ふるさと富岡を盛り上げるべく桜祭り・夏祭り・えびす講市での太鼓演奏活動を展開したり、帰還者、避難者、移住者といったカテゴリーに捉わられることなく、広く町民を元気づけ、笑顔溢れる町になるよう「富岡太鼓まつり」を富岡町学びの森大ホールで2019年度(令和元年度)、2021年度(令和3年度)に続き、2024年(令和6年)2月24日に第三回目を開催した。

さらに、誰でも太鼓に触れ楽しめる場所として代表の自宅に練習場「風童太鼓の里」を設け、中学生や60代の主婦など幅広い年齢層の町民が集まって練習を重ねている。



2022年(令和4年) さくら祭り

## 2.富岡町に関わるきっかけ

昭和50年頃より富岡町の夏祭りイベントは8月14日のうちわ祭り(盆踊り)、8月15日の麓山の火祭り、8月16日はいかだ祭り・灯籠流しが続いていた。

また昭和50年代は、各地区で盆踊り大会が盛んで小浜地区でも青年会が主催となり盆踊り大会があり青年会が太鼓や笛を、地元住民が唄を歌い、地区が一体となって夏祭りを楽しんでいた。

だが時の流れとともに各地区の盆踊りは消滅傾向にあり伝統芸能の盆太鼓が失われようとしていた。

そこで、小浜地区の小学生を対象に太鼓チーム「小浜鼓友会」を1996年(平成8年)に結成し、地区の盆太鼓をはじめとし、うちわ祭り(盆踊り)や諏訪神社盆踊り大会での盆太鼓演奏など町の伝統芸能継承活動を展開してきた。



2002年(平成14年) 富岡町諏訪神社盆踊り大会での小浜鼓友会演奏風景



2001年(平成13年) 小浜盆踊り大会に向けての練習風景(場所:小浜第一公民館)

しかし、東日本大震災後は町民が県内外に避難し富岡町の盆踊りが途切れてしまった。これによりお盆期間に盆踊りの楽しむこと、太鼓・笛・唄を継承することなど富岡のお盆行事や伝統芸能が消滅してしまうことに危機感を抱いた。

そこで、震災から12年が経過した今、帰還者、移住・定住者さらに避難者が一緒になってお盆期間に盆踊りを復活させて富岡町のにぎわい、コミュニティ促進を図っていくことが地元の太鼓団体としての関わりではないかと考えている。

### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容（1）

#### ○ 富岡盆踊り

2017年（平成29年）の一部地域を除く避難指示解除から6年の月日が流れ、そして夜の森・大菅地区を中心とする特定復興再生拠点区域が2023年（令和5年）4月1日に震災から13年目にして避難指示が解除されるなど、着実に町づくりが進んできた。

帰還された被災者にとっては、震災以前からの伝統文化を懐かしんでいただくことで、改めてふるさと感じ、自己肯定感の回復などにより一歩でも前を向いて歩んでいける機会とすることや新たな住民にとっても富岡町を我が町と感じられる事業が重要と感じ開催した。また、避難を続ける被災者もお盆のお墓参りのため一時的に富岡町に帰ってくるタイミングであることから、より多くの方が顔を合わせ、一緒に輪になって踊ることで、様々な課題や日頃のお困り事の解決の糸口となるような交流の第一歩となることを期待して開催した。



#### 《実施概要》

- ・いつ : 令和5年8月14日（月）
- ・場所 : 富岡町ふれあいドーム
- ・対象者 : 帰還者、避難者、移住者、観光交流者
- ・参加人数 : 約300名（子ども含む）
- ・実施内容 : 盆踊り大会・和太鼓演奏・キッチンカー開店・キッズコーナー・じゃんけん大会・フラダンス・よさこい
- ・結果 : ①予想の1.5倍を超える方に参加いただいた  
②参加者にアンケートした結果、約8割の方から継続の要望をいただいた。  
③その内約6割が、震災以前からの伝統行事であるうちわ祭りとして馴染み深い8月14日に開催して欲しいというものだった。





### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容（2）

#### ○和太鼓教室

健康志向の高まりを活用し、伝統芸能である和太鼓を演奏したい方だけではなく、「健康寿命を延ばしたい」「ストレスを発散したい」などといった方に間口を広げ、和太鼓に触れる機会をつくり盆太鼓の継承・生きがいづくりなどを目的として開催している。

・参加人数（令和5年4月～令和6年1月末）

「健康太鼓教室」や富岡中学校などで行った「伝統芸能継承」に延べ700名以上参加

#### ①「健康太鼓教室」

町民や近隣の住民（10代～60代）やいわき市復興公営団地住民（50代～90代）、三春町避難者及び住民（50代～90代）などを対象に教室を開催。



健康太鼓教室（下矢田団地（いわき市））



健康太鼓教室（下神白団地（いわき市））

#### ②「伝統芸能継承」

富岡中学生（20数名）へ盆太鼓をはじめ、学校行事としている永桜祭で発表するために教室を開催。



太鼓教室（富岡中学校）



太鼓教室（風童太鼓の里）



盆太鼓継承教室

### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容 (3)

#### ○ 富岡太鼓まつり

##### 《実施概要》

- ・いつ : 令和6年2月24日(土)
- ・場所 : 富岡町文化交流センター 学びの森 大ホール
- ・出演団体 : 相馬野馬追太鼓・標葉せんだん太鼓保存会・広野昇龍太鼓・  
ならは天神太鼓うしお会・風童さくら太鼓・小浜風童太鼓
- ・来場者数 : 約500名
- ・実施内容 : ①相双地方の太鼓チーム6団体の演奏  
特別ゲストとして双葉町出身の箏奏者と浪江町に移住してきた和太鼓奏者が中心となったユニットの演奏  
②学びの森出入口周辺でのキッチンカーやYONOMORIバームの出店
- ・結果 : ①今回で第3回目を迎え、県内外からの来場者約500名、演者やスタッフ約100名の総勢約600名が学びの森に集まり集まった。  
②参加者にアンケートした結果  
「素晴らしい演奏に感動した」「心に響き元気になった」「全国に広めて欲しい」「毎年開催して欲しい」など前向きな声を数多くいただき、当初の目的が達成されたと感じた。



相馬野馬追太鼓



標葉せんだん太鼓保存会



広野昇龍太鼓



風童さくら太鼓

和太鼓で多くの人へ感動を…  
そして元気に笑顔になってもらいたい!!

心の復興応援 第三回 富岡太鼓まつり

2024年 2月24日(土)

12:20開場 12:50開演

会場: 富岡町文化交流センター  
「学びの森」大ホール

主催: Team風童  
(相馬野馬追太鼓・風童さくら太鼓・風童交楽組)  
協賛: (一社)富岡町観光協会  
後援: 富岡町・富岡町教育委員会

《出演団体》※順不同  
相馬野馬追太鼓 (南相馬市)  
標葉せんだん太鼓保存会 (双葉町)  
ならは天神太鼓うしお会 (楡葉町)  
広野昇龍太鼓 (広野町)  
風童さくら太鼓 (富岡町)  
小浜風童太鼓 (富岡町)

《特別ゲスト》  
箏奏者 大川義秋  
和太鼓奏者 葛西啓之  
※ 和太鼓奏者グループ WINS

入場無料  
入場券: 500円 (税込) 1000円 (税込) 1500円 (税込)

入場券販売: Team風童 代表 櫻井 正和 (TEL: 080-1803-2350)



小浜風童太鼓



箏奏者: 大川義秋



葛西啓之 & 和太鼓彩WINS

#### 4.団体が行う心の復興事業やその他の活動の課題など対策・改善策など

小浜風童太鼓のメンバーは代表を除いて仕事に就いている。そのため太鼓教室に関しては代表夫婦が主体で多方面に出向き対応してきた。

しかし、夫婦共々高齢であり太鼓の積み下ろし、移動、教室運営等の負担が増してきているため、太鼓教室の頻度及び開催先を縮減して令和5年度は、富岡町内を中心とした活動へシフトしてきた。

ところが、過去4年間多方面で教室を開催してきたことで、太鼓が生きがいとなった復興公営住宅にお住まいの方や太鼓に魅了される小学生などから太鼓教室の頻度を増やして欲しいといった要望をいただくようになった。

復興公営住宅では、太鼓を模したゴムマットを人数分揃えてみんなで叩いて楽しんでいたりと、「中学校の授業内だけでは覚えられないから」と風童太鼓の里（代表宅の練習場）に中学生が通って来るようになるなど太鼓での生きがい、楽しさ・面白さが増してきているという嬉しい悲鳴となっていることから今後も継続する責任があると認識している。

しかしながら、小浜風童太鼓は任意団体で会費で運営しているため、スタッフへの賃金や交通費、事務費や消耗品等諸々の資金確保が課題となっている。



ゴムマット太鼓での練習風景



中学生自主練習（風童太鼓の里）

#### 《対策・改善策》・

- ①太鼓教室自体を第三者にお願いすることは不可能なので、小浜風童太鼓メンバー1~2名が月数回の太鼓教室に対応するための交通費や謝礼などを負担していただける機関を確保したい。
- ②趣旨にご賛同いただける地元の事業者やNPO法人などに小浜風童太鼓メンバー1~2名を職員として受け入れていただき、月数回の太鼓教室や盆踊り・太鼓まつりなどのイベントを企画運営していくことや行政・行政関係機関・地元住民などで実行委員会組織によるイベント実施などに繋がられないか検討している。

団体名	特定非営利活動法人 元気になるろう福島		
心の復興事業名	富岡町つつじ再生プロジェクト	代表者	理事長 本田 紀生
作成者	本田 紀生	連絡先☎	024-563-7166

## 1.団体の紹介・プロフィールなど

福島県内の地域の人びと・会社・お店・団体などが元気になるようにサポートすることを目的に設立。経営の視点から、地域活性化や地域づくりの事業支援を行う。福島県内の地域の活性化等に取り組んでいる地域住民・団体、あるいは事業主体に対して、地域活性化の各種提言を行うとともに、各種団体を結びつけ、地域活性化実現に向けた具体的なプロジェクトの構築についての提案・支援やコンサルティング業務を実施。

震災後は、福島の声を全世界に向けて発信する場「ふくしま会議」の事務局や「アースデイ福島」の事務局、福島で被災した子どもたちと絵本作家と共に本をつくる企画、自主避難者向けに放射線量の低い場所への移住・ホームステイの仲介など、様々なプロジェクトを展開中。

川内村では高齢者へのお弁当事業、農業支援事業、川内村産品PR事業、他都道府県からの移住定住者支援。福島での災害による後悔や反省を教訓として伝え、未来に残していくことが大切だと考え、福島伝承スタディーツアーを主催。

また、風評払拭・交流拡大のプロジェクトとして、福島の魅力を台湾に伝える事業を通りして福島県産品の輸出支援にも貢献。

※令和5年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰 受賞団体

## 2.富岡町に関わるきっかけ

当団体は、2011年(平成23年)3月11日以来、被災12市町村の復興活動に従事し、富岡町は、郡山市の「おだがいさまセンター」の活動にも支援をしていました。また、富岡町の団体(双葉郡未来会議など)や町民(藤田大さん、平山勉さん等)と一緒に、富岡町の復興のお手伝いをさせていただきました。

2020年(令和2年)から開始した「富岡町つつじ再生プロジェクト」は、私が支援している渡邊優翔さん(Ichido株式会社)が、「家業のつつじで福島復興のお手伝いをしたい」とのご要望をいただき、当時の高橋副町長とご相談させていただきスタートしました。

当団体の拠点は、お隣の川内村にあり、今後とも富岡町の復興に関わっていきます。

### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容（1）

「富岡町つつじ再生事業」は、除染により伐採されてしまった、富岡町の花「つつじ」を再生することにより、富岡町民の「心の復興」に寄与すると考え進めています。事業内容は、以下です。

- 1、夜ノ森の、旧富岡町第二中学校の「つつじ」を採取し、里親さん約30名を募集し、「つつじ」の生育を大桑原つつじ園様のサポートをいただき生育しています。
- 2、生育したつつじを、富岡町の何処に植えるかのワークショップを通し、「花による街づくり」の勉強を重ねています。
- 3、「花による街づくり」の成功事例、「女川せんねん桜プロジェクト」の視察も3月に行い、今後の富岡町民の「心の復興」を進めたいと考えています。



### 4.団体が行う心の復興事業やその他の活動の課題などと対策・改善策など

富岡町での「心の復興」を行っている、他の団体との交流をもっと進めたいと考えています。当団体の課題は以下です、

- 1、余裕ある団体運営は、なかなか大変です。その為には、「心の復興」以外の復興の助成金情報をいただき、我々団体の資金調達のご支援をお願いしたいです。
- 2、有能な人材がなかなか見つからず、この有能な人材確保が今後の当団体の課題です。

以上の課題にあたっての対策・改善策は以下です。

- 1、他団体との連携を強化する。
- 2、活動資金の支援をいただける団体の確保
- 3、行政はじめ各企業との関係性を強化する。

団体名	特定非営利活動法人 インビジブル		
心の復興事業名	invisible school-見えない学校-	代表者	理事長 山本 暁甫
作成者	山本 暁甫	連絡先☎	050-3710-8483

## 1.団体の紹介・プロフィールなど

特定非営利活動法人インビジブルは、アートを触媒に社会を彫刻し続けるクリエイティブプレイス (Creative Place) です。2015年(平成27年)7月に設立し、「invisible to visible (見えないものを可視化する)」をコンセプトに、アート、文化、クリエイティブの力を用いて、地域再生、都市開発、教育などさまざまな領域におけるプロジェクトの企画運営や、アーティストの活動支援、アートプロジェクトの支援や運営人材の育成、それに伴うプロトタイプの研究に取り組んでいます。

私たちは、「アート」は、さまざまな物事を紡ぎ合わせることで私たちの想像力を拡張させ、新たな視点で物事を考える機会を生み出すものと考えています。そして、その拓かれた想像力と新たな価値観との出会いの中から、現代社会や企業、コミュニティが抱える課題解決の糸口を探っていきます。

公式WEBサイト

<https://www.invisible.tokyo/>

## 2.富岡町に関わるきっかけ

NPO法人インビジブルは、2017年(平成29年)富岡町教育振興計画検討委員会(通称:富岡町のまなびを考える会)に関わり、2018年(平成30年)学校再開に向けたアクションプランの制作に携わりました。そこで「コミュニティの拠点となる学校」を目指すこと、そして震災前から富岡町の教育方針として掲げてきた「町ぐるみで子どもたちを育てる」ことをコンセプトの中心に置き、新たに「人がつながり文化をつむぐ多世代教育」を実現するための展望をまとめました。

同年8月、富岡町との包括連携協定を交わし、この理念をもとに富岡町立小中学校を舞台に、各界のプロが、教室を仕事場としながら子ども達と学校生活を共にするPinSプロジェクト「Professionals in School (プロフェッショナル転校生)」の活動がスタート。現在に至るまで、共育という様々な創成活動が常に循環しその躍動力が維持されて保たれるコミュニティ作りに向けて、教育現場、そして地域コミュニティ二つの入り口から、PinSプロジェクトが定義する「教えない教育=偶然性が生まれる環境」の実践を積み上げています。

公式WEBサイト

<https://pinsproject.net/>

### 3.富岡町心の復興事業を活用した事業内容（1）

富岡社協やNPO法人コースターに協力いただき、富岡町ならびに県中地区（郡山市・三春町）にある福島県復興公営住宅4箇所を訪問し、インタビューとポートレート撮影を行う活動を行いました。インタビューは復興公営住宅で生活されている方や活動支援に携われる方を対象に実施し、基本的にはご自身が持つ大切なものを一つお持ちいただき、その物語を語っていただくことからインタビューを始めるというスタイルで行いました。なお撮影は全てプロのフォトグラファーに依頼し、大切な一枚として残していただける撮影を試みました。

活動日	インタビューした人数	場所
2023年(令和5年) 10月13日	4名	県営日和田団地（郡山市）
2023年(令和5年) 11月17日	3名	町営曲田第二団地（富岡町）
2023年(令和5年) 12月15日	7名	町営栄町団地（富岡町）
2024年(令和6年) 1月26日	3名	町営曲田第二団地（富岡町）
2024年(令和6年) 2月9日	12名	県営平沢団地（三春町）
計 5回	29名	



## 4. 団体が行う心の復興事業やその他の活動の課題など対策・改善策など

### 課題

1. 震災からまもなく13年が経過する中、原発事故の体験を語り継ぎつつも、今のこの地域を知りよりこの地で楽しく生きていくための工夫が必要
2. 震災前からこの地域で暮らしてきた人の様々な物語は、震災と原発事故に縛られずに外部の人がこの地域と出会う重要な足掛かりになると思うが、個人に依拠した思い出や記憶を知る機会が少ない

### 対策・改善策

1. 例えばアーティストやデザイナーなど外部からこの地域に関わる人と、この地域で暮らす人々が協働しながら一つの作品やプロジェクトを作り上げていく過程を共有することで、今は何も無いところから共に新しい状況を創出することができるのではないかと考えています。
2. 今回のinvisible schoolー見えない学校ーの取組のように、様々なアプローチからのインタビューを通して話の節々から見えてくる人々の記憶や個人史を共有することで、震災以前のこの土地の営みを継承し、そこから共に学び合う活動が必要だと思っています。



## 報告書送付先関係機関

(順不同)

- 富岡町観光協会
- 共生サポートセンターさくらの郷
- 原子力損害賠償・廃炉等支援機構
- 福島第一原子力発電所現地事務所
- 公益社団法人
- 富岡町さくら文化・スポーツ振興公社
- 富岡町社会教育委員
- 富岡町社会福祉協議会
- 富岡町商工会
- 富岡小中学校
- 富岡町消防団
- 東京電力ホールディングス(株)
- 福島復興本社
- 富岡地区交通安全協会富岡分会
- 富岡地区暴力排除推進協議会
- 一般社団法人とみおかプラス
- 社団法人 南双広域シルバー人材センター
- 福島県ふたば復興事務所
- 公益社団法人 福島相双復興推進機構
- 福島民報社 双葉南支局
- 福島民友新聞社 富岡支局
- 富岡町婦人会
- ふたばいんふお
- 双葉地方広域市町村圏組合
- 双葉地方町村会
- 復興庁福島復興局
- 富岡町文化団体連絡協議会
- 富岡町民生・児童委員協議会
- 富岡町老人クラブ連合会
- 杉内行政区
- 仲町行政区
- 高津戸行政区
- 下千里行政区
- 大菅行政区
- 夜の森駅前北行政区
- 夜の森駅前南行政区
- 新町行政区
- 赤木行政区
- 上本町行政区
- 王塚行政区
- 本町行政区
- 岩井戸行政区
- 清水行政区
- 上郡行政区
- 太田行政区
- 下郡山行政区
- 毛萱行政区
- 仏浜行政区
- 駅前行政区
- 西原行政区
- 中央行政区
- 小浜行政区
- 深谷行政区
- 小良ヶ浜行政区
- 栄町行政区
- 新夜ノ森行政区
- 郡山方部居住者会
- いわき地区広域自治会「さくらの会」
- いわき市在住富岡町民すみれ会
- 福島市及び県北地区在住富岡町民自治会
- 横堀平団地自治会
- 相双絆会
- みやぎ富岡さくら会
- 富岡はまかせ会
- つくばさくら会
- 草木台コミュニティ推進クラブ